

～芥川の魚みち～



あくあぴあ上流の魚みち (平成17年完成)

河川の防災工事に際し、現場で工夫して施工した魚みち。より遡上しやすい構造となるよう改善の余地あり。



あくあぴあ下流の魚みち (平成22年完成)

平成22年に設置された階段状のプールのある、アイスハーバー型の魚みち。多くの魚が遡上し、小さい魚、遊泳能力の低い魚の遡上も確認。



桜堤公園の魚みち (平成21完成)

デルタフリープロック製の魚みち。ブロックの配置などをみんなで工夫しました。



JR鉄橋下流の魚みち (平成20年完成)

芥川俱楽部の取り組みで最初に設置された、木板でプールを階段状に仕切った魚みち。



芥川大橋上流の魚みち (平成23年完成)

国土交通省により設置された階段式の魚みち。魚が見つけやすいように、遡り口を堰のすぐ横に設けてあるのが特徴。



原点は土のうによる魚みちづくり！【芥川俱楽部】

今から7年前の平成16年、芥川大橋上流の落差工下まで大阪湾から淀川を遡って来たアユを確認し、翌年7月、なんとかこのアユを中流の摂津峠まで上らせたいと、市民・行政のネットワーク「芥川俱楽部」が誕生しました。

魚みち部会で学識経験者からアドバイスも受け、その年の10月には桜堤公園前の落差工で土のうを用いた魚みちをみんなで作りました。魚みちの勾配や途中のプールの深さや位置、渦の出来にくい流れ等など、現場で試行錯誤を繰り返し、どうしたらそこにいるオイカワなどが上ってくれるかななど、多くのノウハウを学ぶいい機会となりました。この経験を活かし、平成18年3月にはJR下流で、さらに4月には国土交通省管轄の芥川大

橋上流でも許可を得て、土のうを積みました。ここでは大水により、積んだ土のうが流されて、回収するのに一苦労…。

土のうを積んだ手作り魚みちでは、たくさんのこと学びました。そしてついに平成18年6月16日、土のうの魚みちを天然アユが上ったのでした。

あれから丸5年、待ち望んでいた恒久的な魚みちが完成し、上流でアユが次々と見つかっています。嬉しい限りです。

アユちゃん、お帰りなさい！！



アユ遡上調査の様子(芥川大橋上流部)



遡上アユ上流へ そして川からまちへ！【大阪府茨木土木事務所】

河川空間において、それぞれの川の特色や地域ニーズに応じた良好な水辺空間の再生を目指して、大阪府は「芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク」に発足当初より参画し、ネットワークの方々とともに「魚みち」を設置してきました。そしてようやく、平成23年3月に、淀川からの天然アユの遡上を妨げていた芥川大堰に、国土交通省により「魚みち」が設置され、本格的に下流からのアユの遡上が可能となりました。今後は、環境調査・遡上実験を通じて、設置されている「魚みち」の効果をネットワークの皆さんと共に共有し、試行錯誤を繰り返しながら、上流までアユが遡上できるような豊かな河川環境の再生を地域ぐるみで取り組んでいきます。さらには、まちづくりの主体である流域住民や企業、教育関係者等の地域の方々にもネットワークに加わり、「河川を活かしたまちづくり」が進むことを期待しています。

魅力あるまちづくりへ！【高槻市】

本市では、芥川とその沿川地域の連なりを都市シンボル軸として位置づけています。また芥川創生事業として、市民の皆様や大阪府とともに基本構想を定め、「芥川・ひとと魚にやさしい川づくり」を進めています。これまで芥川の清掃や、特定外来生物「ミズヒマワリ」の駆除活動、土のうを積んだ実験魚みちづくり、魚みち設置に向けた会議など、芥川俱楽部とともに活動に取組んできました。今般、これまでの活動が実を結び、新たな魚みちを設置いただいたことで、いよいよアユがさらに上流へと遡上を始めたことは、大変喜ばしいことです。

本市はこれからも、魚みちを活かしながら川に関わる様々な人々の繋がりの場を創出し、人と川・人と人の良好な関係を築く川づくりのさらなる発展を目指し、市民の皆様とともに魅力あるまちづくりに取組んでまいります。

芥川クリーンアップ大作戦(芥川大橋)



淀川河川事務所 河川環境課 にインタビュー

- 芥：今回、芥川大橋上流に魚みちを作成いただきましたが、この魚みちについて、また芥川について何か思うところがあれば教えてください！
- 淀：遡上調査の結果、アユの遡上を確認されたことを聞いたときは、「ほっと」しました。これから、たくさんの魚がこの道を通り、上流へのぼることを期待しています。
- 芥：ありがとうございました。芥川俱楽部もさらに上流へアユが遡上することを目指して取り組みを進めていますので、今後ともよろしくお願いします！